丁場割図にみる名古屋城石垣普請

名古屋城の石垣普請

名古屋城は徳川家康の命により、慶長14年(1609)に築城が決定し、同15年に石垣普請がおこなわれました。石垣普請の際には、加藤清正や福島正則をはじめとする西国・北国大名20家を動員して土木工事を担わせる公儀普請が実施されることになり、諸大名はみずから指揮を執って、尾張・三河・美濃に点在する石材の産出地(「石切場」)から石材を切り出して名古屋に運び、石垣普請に取り掛かる準備を始めました。

同年6月3日には、石垣の基礎となる石材を置く「根石置き」がおこなわれ、本格的な石垣普請が開始されました。8月下旬には加藤清正が担当した天守台石垣が完成し、さらに9月になると、ほとんどの場所で石垣が築き終わったため、諸大名は自分の領国へと帰国しています。

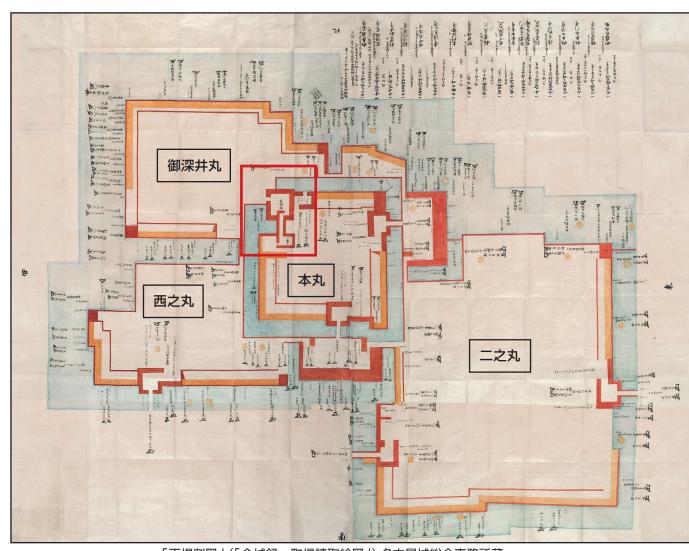
このとき大名たちによって、本丸・二之丸・西之丸・櫛深井丸にある石垣が築かれました。築城時の 名古屋城の石垣は、大名たちが3~4ヶ月で築き上げたものなのです。

丁場割図の内容

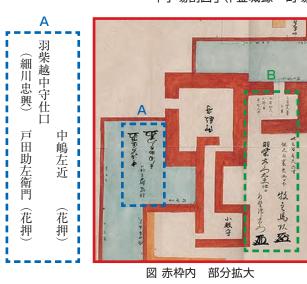
名古屋城の石垣普請では、各大名に割り当てられた普請担当場所を示す「丁場割図」という絵図が作成されました。「丁場割図」には、天守台石垣の普請を務めた加藤清正を除く19家の大名が確認できます。さらに、本高(石高)を基礎に各大名に配分された石垣普請役の負担割合が記載されていますが、11家は本高より3割増の負担になっています。各丁場には大名の名前が記され、その下には大名に仕える家臣1~3名が花押を据えていることから、「丁場割図」は、各大名の担当場所を確認させるために、幕府の普請奉行によって作成された絵図であると推測できます。

| 順番 | 大名 | 丁場割図の記載名 | 領国 / 居城 | 役高 | 割増分 | 本高 |
|-----|-------|----------|-------------|------------|-----|-----------|
| - 1 | 前田利常 | 松平筑前守 | 加賀・能登・越中/金沢 | 134万2510石 | 三割加 | 103万2700石 |
| 2 | 黒田長政 | 黒田筑前守 | 筑前/福岡 | 40万3000石 | 三割加 | 31万石 |
| 3 | 細川忠興 | 羽柴越中守 | 豊前/小倉 | 39万石 | 三割加 | 30万石 |
| 4 | 鍋島勝茂 | 鍋島信濃守 | 肥前/佐賀 | 46万4146石8斗 | 三割加 | 35万7036石 |
| 5 | 田中忠政 | 田中筑後守 | 筑後/柳川 | 39万2710石5斗 | 三割加 | 30万2085石 |
| 6 | 寺澤広高 | 寺澤志摩守 | 肥前/唐津 | 12万3689石8斗 | 三割加 | 9万5146石 |
| 7 | 毛利高政 | 毛利伊勢守 | 豊後/佐伯 | 2万4700石 | 三割加 | 1万9000石 |
| 8 | 竹中重利 | 竹中伊豆守 | 豊後/府内 | 2万6000石 | 三割加 | 1万9000石 |
| 9 | 稲葉典通 | 稲葉彦六 | 豊後/臼杵 | 6万5078石 | 三割加 | 5万60石 |
| 10 | 木下延俊 | 木下右衛門大夫 | 豊後/日出 | 3万9000石 | 三割加 | 3万石 |
| 11 | 金森可重 | 金森出雲守 | 飛騨/高山 | 4万9923石2斗 | 三割加 | 3万8402石 |
| 12 | 池田輝政 | 羽柴三左衛門 | 播磨/姫路 | 80万7500石 | | 80万7500石 |
| 13 | 生駒正俊 | 生駒左近大夫 | 讃岐/高松 | 8万5900石 | | 8万5900石 |
| 14 | 福島正則 | 羽柴左衛門大夫 | 安芸・備後/広島 | 49万8200石 | | 49万8200石 |
| 15 | 浅野幸長 | 浅野紀伊守 | 紀伊/和歌山 | 37万4200石 | | 37万4200石 |
| 16 | 山内忠義 | 松平土佐守 | 土佐/高知 | 20万2600石 | | 20万2600石 |
| 17 | 毛利秀就 | 松平長門守 | 長門・周防/萩 | 20万石 | | 20万石 |
| 18 | 蜂須賀至鎮 | 蜂須賀阿波守 | 阿波/徳島 | 18万6700石 | | 18万6700石 |
| 19 | 加藤嘉明 | 加藤左馬助 | 伊予/松山 | 19万1600石 | | 19万1600石 |
| 20 | 加藤清正 | | 肥後/熊本 | | | 52万石 |

「丁場割図」記載大名19家一覧表 ※「本高」及び20「加藤清正」の欄は「蓬左遷府記稿」より引用



「丁場割図」(「金城録 町場請取絵図」) 名古屋城総合事務所蔵



(福島正則) 水野次郎右衛門(花押)羽柴左衛門大夫仕口 牧主馬頭(花押)

A:細川忠興丁場(本丸西側小天守脇石垣)

中嶋左近・戸田助左衛門(忠興の家臣)が花押を据えて、細川家の担当丁場を確認している

B:福島正則丁場 (不明門付近枡形石垣)

牧主馬頭・水野次郎右衛門 (正則の家臣) が花押を据えて、福島家の担当丁場を確認している



19家の大名に担当丁場を割り当てて確認させる (=丁場を請け取らせる)ために作成されたのが「丁場割図」であると推測できる

現存する複数の丁場割図

現在、名古屋城には丁場割図の原本は残されていません。明治 26 年(1893) から昭和 5 年(1930) にかけて名古屋城を管理していた宮内省によって、写本が複数作成されています。これら宮内省由来の写本は、現在では宮内庁と名古屋城総合事務所に所蔵されており、今回掲載した図は、宮内庁宮内公文書館が所蔵している丁場割図写本をさらに写した絵図だと考えられます。

また、他の丁場割図については、最近の研究により、靖國神社遊就館所蔵の丁場割図が、慶長15年に作成された原本である可能性が指摘されています。さらに、名古屋市蓬左文庫には、宮内省系統の写本とは異なる丁場割図が存在します。丁場割図自体は以前から広く知られている絵図ですが、現存している複数の絵図を比較検討することにより、江戸時代の公儀普請について新たな発見があるかもしれません。(学芸員 堀内亮介)